



五橋中学校の取組 ～学力向上にむけて～

五橋中学校学習指導部



今年度の研究主題

生徒一人ひとりの応用力（思考力・判断力
・表現力等）をはぐくむ授業の工夫
～各教科等における言語活動の充実を通して～
(2年次)

テーマ設定の理由

- ・ 言語が介在しない学習活動は存在しない
- ・ 確かな学力育成には
 - ・ ・ ・ 言語活動を軸にした指導法の充実が不可欠



共同研究テーマとの関連

- ・ 応用力とは？ 思考力・判断力・表現力等

どの力も育成には時間がかかる

- 計画的に 段階的に 継続的に
- 一単位時間の授業の積み重ね
- 教師の実践的指導力向上が不可欠



共同研究テーマとの関連

・現場の教師の声

「どんな言語活動があるのか？」

「どのように導入すればよいのか？」

「実践例が欲しい・・・」



教育センターの先生方の指導・支援
授業づくりから一緒に考える



研究にあたって

(1) 期間 3か年

(平成20年度～22年度)

(2) 重点教科の設定 3年間で全教科

H20 国・数・道徳

H21 理・社・英

H22 音・美・体・技家



研究組織① 「研究は全員で」

☆教師全員が重点教科の
専門部に所属

- 教科を越えて
 - ①授業づくりの視点
 - ②授業参観ポイント
 - ③検討会進め方

を共通理解する



理科の授業検討会の様子



授業づくりの工夫

授業づくりの流れは・・・

思考

発信

交流

再考

発信

(平成20年度の研究より)



言語活動の例①

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について構想を立てて実践し、評価改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる



言語活動の例② 説明する力

理解しているからこそ「説明する」
ことができる（基礎基本の活用／学び合い）



自分で**学習した内容を自覚する**



自覚する学習活動そのものが、**学力として
思考力・判断力・表現力という力を身につけ
ることになる**



昨年度の国語科の取組より

説明することに力点をあいた指導の中で

- ・理由を明らかにする
- ・順序に気をつける
- ・自分なりの工夫をする
- ・思考の過程を明らかにする
- ・論点を絞り込んだ経過が分かる
- ・対話の中で自分の考えを整理する



言語活動の取り入れ方について

○合同研修会（12月24日）：講演会

講師：横浜国立大学人間科学科附属
横浜中学校前校長 高木展郎先生

とりたてて新しいことに挑戦するのではなく
これまでやってきたことをもう一度見直し、
単元の中のどの部分にどんな活動をとおして
応用力をつけていけばよいのかを検討することが大切。

今年度の取組① (理科)

- 1 単位時間で学習
プロセスをたどる

= 授業づくりの工夫 =

- ① 演示実験で学習意欲を高める
- ② 思考や交流の時間確保のためにシンプルで的確な実験を設定
- ③ ICTの活用



今年度の取組② (社会)

- 付箋を使った資料の読み取りとKJ法による話し合い活動

= 授業づくりの工夫 =

- ① 比較させながら資料を読み込む
- ② 話し合い活動のグループづくり
(国語科との連携)



今年度の取組③（英語）

■ 英語科の学習プロセス

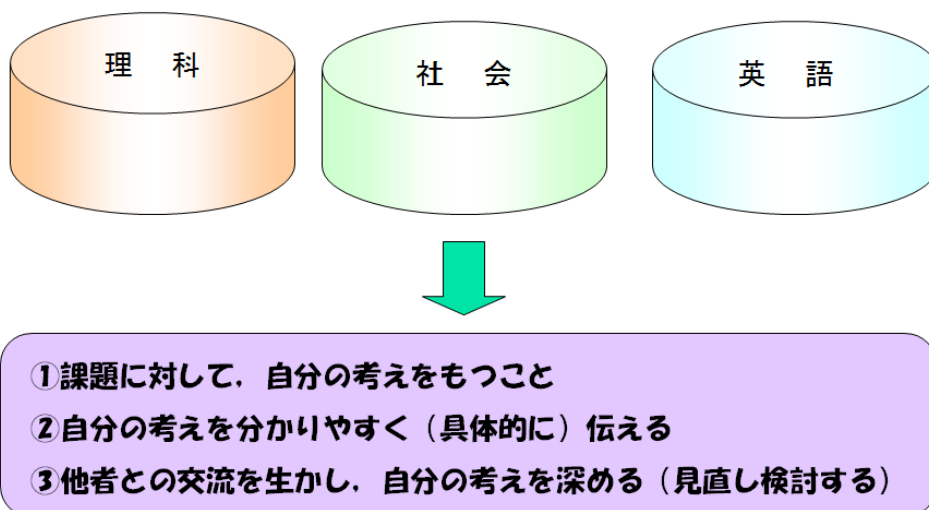
受信→思考→発信→交流→再考→発信

- 「わたしの夢」（2年生）
- 「乗り継ぎのある道案内」（3年生）

◆工夫◆

- ①単元構想における実践
- ②発表の形態
- ③相手を意識した内容と発表

言語活動の充実を図る視点



言語活動の具体 ～継続してできること～

理 科

- ・実験, 観察をもとに, 結果や考察をまとめる
- ・グラフ, 図表なども用いて自分の考えを根拠を添えて伝える
- ・自分の考えを修正する
など

社 会

- ・社会的事象との出会いから学習課題をつかむ
- ・調べたことを書いたり話したりして表現する
- ・社会的事象の意味について互いに伝え合い, 多面的・多角的に考えを深める
など

英 語

- ・既習事項を活用し, テーマに沿った英文を書く, 話す
- ・内容構成や表現方法等を工夫しながら, 考えや思いを表現する
- ・他の発表から自分の発表を振り返り, 練り直す
など

今年度の研究をふりかえって

生徒の変容

- ・根拠や理由をそえて意見がもてる
- ・学習と生活体験を結びつけられる
- ・他の考えを参考に, 意見を深める
- ・いろいろな活動に話し合いを活用

今年度の研究をふりかえって（2）

研究推進

- ・ 全教科で共通理解が深まった
（研究テーマが目指すもの、授業づくり など）
- ・ 小中連携の基盤づくりができた
- ・ 教育センターとの連携が深まった



次年度の課題

- ◆今年度までの蓄積を技能教科へ反映
- ◆グループの作り方の工夫
- ◆分かりやすい「応用力」の評価
- ◆小中の連携強化
- ◆日常生活における言語環境の整備





仙台市立五橋中学校

